

はじめに

世界の食料を巡る状況は、人口増加等にもなう消費の増加に生産が追いつかず、今後も需給のひっ迫が続き、食料価格も高止まりすると予測されています。さらに農産物の生産条件も悪化しており、毎年500万ha以上の農地が砂漠化しています。

一方、我が国の農業は、農業従事者の減少や高齢化の進行、耕作放棄地の増加などの課題が顕在化してきており、そのため意欲ある多様な農業者を育成・確保し農地の有効利用を図り、国民に対して食料を安定的に供給・確保していくことが喫緊の課題となっています。

多様な気象条件と地形条件の下で農業経営が展開される中国四国地域は、中山間地域が多く1経営体当たりの経営耕地面積は全国平均を1.14ha下回る1.05ha、農業就業者の平均年齢は全国平均を2.7歳上回る68.5歳、耕作放棄地面積の割合は全国平均を9.8%上回る19.6%と全国で一番深刻な状況となっています。

こうした中で、中国四国地域には広島県世羅町の6次産業化農業、徳島県上勝町の葉っぱビジネス、高知県馬路村のゆず加工など、全国に誇れる先進的な元気な農村の取り組みもあります。

しかし、多くの地域では、特長を活かした地域の活性化に取り組む糸口が見つからず、また今ある農地を守ることが精一杯で耕作放棄地の解消にまで手が回らないのが現状です。

このため、中国四国農政局では、耕作放棄地対策は地域農業の将来を見据え、地域活性化に向けた各種施策との一体的推進を図る中で取り組むことが効果的と考え、平成21年度に「農地活用・再生プロジェクト」を立ち上げました。

本プロジェクトでは、管内の7つの市町をモデル的市町村として位置付けて調査を行い、それぞれの取り組みに共通するキーワードである「人」、「モノ」、「仕掛け」、「地域」に視点を当て分析し、その結果を「耕作放棄地を活かした元気な地域づくりの“ツボ”」として取りまとめました。

本書は、今後さらに内容を充実させて行く予定ですが、地域で耕作放棄地対策に取り組む上でのヒントとしてご利用していただければ幸いです。

最後に本書の作成にご協力頂きました関係者の皆様方に対して厚くお礼を申し上げます。

平成23年3月

中国四国農政局長 勝山 達郎